

リサーチ・プロジェクトについて

- 当委員会では、IASB 意見募集「アジェンダ・コンサルテーション 2011 年」に対するコメントの中で、我が国の市場関係者の関心の高い個別項目の検討を IASB に要望した。
- これらの個別の項目については、ASBJ 内部にリサーチ・プロジェクトを立ち上げ、IASB に要望した項目の実現を図っていくための、調査研究を開始している。今後、IASB との定期協議や、その他の国際会議等の機会を捉えて、意見発信を行っていく予定であり、一部については実施済みである。具体的には、次のとおりである。
 - 概念フレームワークに関連する事項（OCI/純利益、公正価値測定 of 範囲）
 - IASB において、概念フレームワークの検討が開始される予定であり、構成要素・測定・表示及び開示・報告企業について一括して検討が行われる予定である。この中には、アジェンダ・コンサルテーションで指摘した OCI/純利益、公正価値測定 of 範囲も含まれる。今後、我が国の主張を整理し、IASB に対して主張を行っていく予定である。
 - 開発費の資産計上
 - 本年 3 月の IFASS 会議（会計基準設定主体国際フォーラム）で年次報告書の分析等の結果を報告している。これに対するフィードバックを踏まえ、現在、アカデミック・リサーチ等の調査を実施している。
 - のれんの非償却
 - EFRAG と OIC（イタリア会計基準設定主体）がのれんの会計処理に関する調査を実施しており、ASBJ も調査票の作成に協力している。
 - 当該調査票に対する我が国関係者の回答の集約を行うとともに、当該調査票をベースにして、今後の意見発信のために、我が国関係者向けに別途「のれんの減損及び償却に関する質問票」を 9 月 7 日に公表し、意見を募集している。
 - 開示フレームワーク
 - 本年 7 月に FASB と EFRAG が各々ディスカッション・ペーパーを公表しており、それらに関するコメントを検討している。

以 上